

ばれいしょ

担当者 技能研究員 泉谷 雅俊

試験課題名	品種栽培展示圃
目的	食用、加工用の品種における栽培特性を比較、検討し生産技術の普及に資する
期待される成果	各品種の特性を把握するとともに、輪作体型と作付け指標に沿った計画的な作付けを推進する
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会芋部会

1 供試品種・資材

品種

※ 農林1号・ワセシロ・トヨシロ・男爵薯・キタアカリ

※基準品種

2 耕種概要

土質～埴壤土

前作～大豆

浴光催芽～4月24日

植え付け日～5月16日

収穫日～9月13日

栽植密度～ A区 標準栽培 A区 農林1号・男爵薯・ワセシロ 畦幅75cm×株間30cm 4,444株/10a当たり
トヨシロ・キタアカリ
B区 密植栽培 B区 男爵薯・キタアカリ 畦幅75cm×株間27cm 4,938株/10a当たり

3 土壤診断結果と施肥量

(1) 土壤診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出N
5.8	0.050	37.3	47.8	40.1	202	8.5

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル～80kg

(3) 施肥内容 (kg/10a)

基肥～BBS004(10-20-14)5月16日 全層施肥

B M 熔 隣 (0 - 20 - 0) 5月16日 全層施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基 肥	BBS004 80kg	8.0	16.0	11.2
	B M 熔 隣 5kg	0.0	10.0	0.0
合 計		8.0	26.0	11.2

4 調査項目

生育調査～浴光催芽始・植え付け・萌芽始・萌芽期・萌芽率・初期生育(6月20日)

着蕾期・開花期・茎葉黄変期・枯凋期・疫病指数

収量調査～総収量・規格内割合・M以上の製品率

5 生育調査

項目	品種	A区 4,444株/10a当たり					B区 4,938株/10a当たり	
		農林1号	ワセシロ	トヨシロ	男爵薯	キタアカリ	男爵薯	キタアカリ
浴光催芽始		4月24日						
植え付け		5月16日						
萌芽始		6月1日	6月9日	6月5日	6月5日	5月31日	6月4日	6月3日
萌芽期		6月6日	6月14日	6月10日	6月11日	6月6日	6月9日	6月7日
萌芽率(%)		82.7	90.1	86.3	84.5	95.8	86.0	94.6
初期生育・6月20日(良5～不良1)		3	4	3	4	3	3	3
着蕾期		7月7日	7月8日	7月10日	7月8日	7月7日	7月7日	7月7日
開花期		7月13日	7月13日	7月15日	7月15日	7月13日	7月14日	7月12日
茎葉黄変期		8月25日	8月24日	8月27日	8月27日	8月25日	8月27日	8月25日
枯凋期		9月5日	9月4日	9月6日	9月5日	9月6日	9月4日	9月7日
疫病指数(多5～少1)		3	3	2	2	3	3	3

6 収量調査

項目	品種	A区 4,444株/10a当たり					B区 4,938株/10a当たり	
		農林1号	ワセシロ	トヨシロ	男爵薯	キタアカリ	男爵薯	キタアカリ
総収量(kg/10a)		5,911	4,356	5,156	5,422	5,156	5,481	6,271
規格内収量(kg)	3L以上	889	622	488	311	577	691	641
	2L	711	845	1,511	1,155	400	641	1,135
	L	1,200	843	1,245	1,244	1,155	691	1,185
	LM	1,022	400	665	844	933	987	987
	M	933	356	223	801	533	888	790
	S	533	443	443	399	800	691	790
	外品	623	847	581	668	758	892	743
M以上の製品率(%)		80.4	70.4	80.1	80.3	69.8	71.1	75.6

※ 規格 3L 260g 以上 2L 190～260g 未満 L 130～190g 未満
LM 90～130g 未満 M 70～90g 未満 S 70g 以下

7 病害虫防除履歴

殺菌剤			殺虫剤		
5月 9日	ハシタック水和剤75	100倍	7月 4日	エルサン乳剤	1,000倍
7月 4日	ダコニール1000	1,000倍	8月 1日	トレボン乳剤	1,000倍
8月 1日	グリーンペンコセブ水和剤	500倍			

8 試験結果概要

(1) 生育経過

- ① 4月24日から全品種浴光催芽を始めた。5月11日に種芋を切り、5月16日に植え付け、萌芽は5月31日からキタアカリが始まり、ワセシロは最も遅く6月9日であった。
- ② 萌芽率は、A区のキタアカリ 95.8%、ワセシロ 90.1%、トヨシロ 86.3%、男爵薯 84.5%、農林1号は82.7%で低い結果となった。
- ③ 萌芽後の生育はやや遅れていたが、草丈や茎葉の生育は順調に推移した。疫病の発生も、農林1号の3(多5～少1)に対して、トヨシロ、男爵薯が2と疫病の発生は低かった。

(2) 収量調査結果

- ① 収量調査は9月13日に実施した。基準品種の農林1号は10a当たり収量 5,911kgであり、トヨシロ 5,156kg、男爵薯 A区 5,422kg、B区 5,481kg、キタアカリ A区 5,156kg、B区 6,271kgで男爵薯、キタアカリとともに密植栽培のB区の収量が高い結果となった。
- ② M以上の製品率は農林1号 A区 80.4%、男爵薯 A区 80.3%、トヨシロ 80.1%、キタアカリ B区 75.6%、男爵薯 B区 71.1%、ワセシロ A区 70.4%、キタアカリ A区 69.8%であった。

(3) 考察

A区の標準栽培(栽植密度 4,444株)では10a当たり収量が農林1号 5,911kg > 男爵薯 5,422kg、キタアカリ 5,156kgと品種別では農林1号が一番高かったが、B区の密植栽培試験(4,938株)と比較すると、男爵薯では収量の大きな差はなかったが、生食で人気のある規格内収量のLM、L、2LサイズがA区 59.8%、に対してB区 42.3%と標準栽培区が優れている結果となった。

しかし、キタアカリではA区の10a当たり収量 5,156kgに対し、B区は6,271kgで密植栽培区が20%以上の増収となった。

また、LM、L、2L規格でもA区のキタアカリ 48.3%に対し、B区は52.7%でキタアカリは密植栽培区が収量、品質ともに良い結果となった。